科目名称：	ホテル事業論	
担当者名：	本郷　一郎	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2

授業の目的・テーマ

ホテル・旅館がたどってきた歴史を中心に観光業、特に宿泊業の変遷を学ばせるとともに、近年の国内外の社会の動き、生活スタイルの変化、そして３年間にわたり苦しんだ新型コロナウイルス感染症（以下Covid-19と表現）禍の影響により、パラダイムシフトを求められる宿泊業界の、今後の変わるべき将来像について考えてもらい、観光業、宿泊業に携わる人材の育成を促進するとともに、学生全般に対して観光に対する意識付けを深めてもらうことを目的とします。さらには元日に発生した「令和６年能登半島地震」が及ぼす地域経済への影響、３月１６日に迎える北陸新幹線敦賀延伸がもたらす＋、－の効果についても学生とともに考えていくことを目指します。

授業の達成目標・到達目標

With Covid-19時代に適応できるホテリエ候補生を育成します。
時代の変化に対応できる考察力、行動力を身に着けさせ、各業界での即戦力化を目指します。
令和６年能登半島地震、北陸新幹線敦賀延伸が北陸経済にもたらす影響について考えてもらいます。

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)		20	80		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容１》航空系都市型ﾎﾃﾙ　ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ｾｰﾙｽ・広報	《経験年数１》 18年
	《内容２》外資系都市型ﾎﾃﾙ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ(AGM)・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ｾｰﾙｽ	《経験年数２》 6年
	《内容３》地場資本宿泊特化型ﾎﾃﾙ　ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ(代表取締役社長兼GM)	《経験年数３》　8年
	《内容４》地場資本温泉旅館 新規事業開発準備室長	《経験年数４》　1年
	《内容５》外資系都市型ﾎﾃﾙ　ｹﾞｽﾄﾘﾚｰｼｮﾝｽﾞ＆ｺﾝｼｪﾙｼﾞｭ ｼﾆｱﾏﾈｰｼﾞｬｰ	《経験年数５》　18カ月
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
各講義ごとに提出を求めるミニレポート	講義内容を十分に理解し、自らの将来においての知識の活用までしっかりｲﾒｰｼﾞできている	講義内容を十分に理解しているとみられる	観光業、宿泊業について一定の知識を身に着けたとみられる	観光業、宿泊業についての受容意欲が希薄である
期末に提出を求める課題レポート	15回の講義全般の内容を理解し、自らの考えをしっかり表現できている	15回の講義全般の概要を理解しているとみられる	観光業、宿泊業について一定の知識を身に着けたとみられる	観光業、宿泊業についての受容意欲が希薄である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回　ホテルの社会的役割とその変遷	ホテル経営論の振り返りと事後のまとめ	30分
第２回　宿泊業のこれまでと現状	宿泊業についての事前学習と事後のまとめ	30分
第３回　ホテルのタスク構造　主として宿泊部門業務	宿泊業務の事前学習と事後のまとめ	30分
第４回　ホテルのタスク構造　主として料飲部門業務	ﾚｽﾄﾗﾝ、宴会業務の事前学習と事後のまとめ	30分
第５回　ホテルのタスク構造　主としてS&M部門業務	ｾｰﾙｽ、ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ業務の事前学習と事後のまとめ	30分
第６回　ホテルの企業としての社会的責任（CSR）	宿泊業の社会的責任の事前学習と事後のまとめ	30分
第７回　これからのホテリエに求められるもの	自分の将来のホテリエ像を想像し、事後は足りないものをまとめる	30分
第８回　顧客満足（CS）について考える	顧客満足について考え、事後はまとめる	30分
第９回　最大売上（ﾚﾍﾞﾆｭｰ)を上げる手法について考える	売上げを伸ばす手法を考え、事後はまとめる	30分
第10回　ゲスト分析とプロファイリング	ゲストの分析手法を考え、事後はまとめる	30分
第11回　ITを生かす観光のトレンド	昨今のIT事情を予習し、事後はまとめる	30分
第12回　「Covid-19」禍は観光をどう変えたのか？	「covid-19」の影響の検証と事後のまとめ	30分
第13回　北陸新幹線の敦賀延伸効果はプラスか、マイナスか（グループワーク）	北陸新幹線が地元にもたらす効果検証と事後のまとめ	30分
第14回　令和６年能登半島地震が観光に及ぼす影響	能登半島地震の影響の検証と事後のまとめ	30分
第15回　新時代の観光業、宿泊業の有り方を考える	レポート作成と当日の提出	90分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前には告知する課題についての予習、事後学修としては、配布する課題に関するレジュメの振り返りを求める。

成績評価の方法・基準

定期試験は、 実施しない。　　その他の評価配分は、以下のとおりである。

期末に提出されるレポートが80%、各講義最後に提出されるミニレポートが20%の割合で評価する。

課題に対してのフィードバック

毎回の講義最後に提出されるレポート内容をルーブリックに沿って確認し、必要な場合はフィードバックする。

教科書・参考書

使用しない